精神疾患とその治療（’20）

Understanding and Treating Mental Disorders ('20)

主任講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

メディア	ラジオ
放送時間	2023年度［第1学期］（火曜） 20:15～21:00
単位認定試験日／時限	2023/07/23　8時限 （17:55～18:45）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　生活と福祉
科目コード	1519271
ナンバリング	330
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（84.9点） 2021年度2学期（90.3点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
精神医学の診断や治療の基本的な考え方を展望し、代表的な精神疾患の症状・経過・治療などについて解説するとともに、関連法規や社会制度の概略を紹介する。

【授業の目標】
精神疾患にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴をもっているか、疾患をどのように診断し治療するのか、治療法にはどのようなものがあるか、精神疾患の当事者をとりまく社会制度や援助のための社会資源はどのような現状にあるか、このような基本的な知識・理解を獲得することを目的とする。昨今の当事者活動の盛りあがりや、多職種連携の必要性についても十分理解したい。

【履修上の留意点】
医学一般について関心をもち、心身の健康について幅広く理解する姿勢が望まれる。
「今日のメンタルヘルス」や「精神看護学」、心理学領域の関連科目などを履修することを推奨する。この科目を履修した後に、大学院科目「精神医学特論」などに進んでいくことが望ましい。
※この科目は、生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　精神疾患と精神医学

精神疾患とはどのようなものであるかを、身体疾患と比較しながら学ぶ。精神医学の意義や特徴について理解し、臨床心理学との関連について考える。また、統計データを通じて精神疾患や自殺の最近の動向を展望する。

【キーワード】
精神医学、精神疾患、自殺、臨床心理学、心の臨床

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第2回　精神疾患の診断と診断基準

精神疾患の診断の手順と、その際に用いられる診断基準について、今日の代表的な操作的診断基準であるDSMとICDを中心に学ぶ。診断は一方的に宣告するものではなく、SDMの考え方に従って共有すべきものであることを理解する。

【キーワード】
操作的診断基準、DSM、ICD、外因・心因・内因、SDM

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第3回　精神疾患の治療

精神疾患の治療のあり方について基本的な考え方を学ぶ。特に薬物療法と精神療法という二本の柱に注目し、それぞれの療法の目的・有用性・有害作用・限界について知る。薬物療法と精神療法の相補的な関係や多職種連携の意義についても理解しておきたい。

【キーワード】
薬物療法、向精神薬、プラセボ効果、精神療法、認知行動療法

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第4回　統合失調症

入院患者の中では最多を占め、幻聴や被害妄想などの陽性症状や、自発性の低下などの陰性症状を呈しつつ進行する統合失調症について、症状・経過・治療などを学ぶ。ドーパミン仮説などの成因論や、近年注目されている当事者活動にも触れる。

【キーワード】
統合失調症、陽性症状と陰性症状、抗精神病薬、ドーパミン仮説、当事者活動

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第5回　うつ病と双極性障害

今日の代表的な精神疾患である気分の障害、すなわちうつ病と双極性障害について、その症状・経過・診断・治療について学ぶ。両者の異同について正しく理解したうえで、抗うつ薬や気分安定薬などによる薬物療法の概略と治療原則を知る。

【キーワード】
うつ病、双極性障害、抗うつ薬、気分安定薬、心理教育

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第6回　「うつ」をめぐるさまざまな話題

うつ病の理論と実践に関わるさまざまな話題、すなわち、うつ病概念の変遷とDSMの影響、うつ病の多様性と「新型」あるいは「現代型」の問題、精神療法のあり方、睡眠の重要性、抗うつ薬の多面的な効用などについて論じる。

【キーワード】
うつ病の多様性、適応障害、うつ病の小精神療法、睡眠衛生指導、常用量依存

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第7回　不安障害と強迫性障害

以前は神経症と呼ばれていた多彩な疾患群は、不安や恐怖を中心的なテーマとするものである。その中から不安障害（パニック障害、全般性不安障害）と強迫性障害をとりあげ、概念・症状・経過・治療について学ぶ。

【キーワード】
不安、恐怖、神経症、パニック障害、全般性不安障害、強迫性障害

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第8回　ストレスとストレス関連障害

ストレス概念は、現代人のメンタルヘルスを考えるうえでとりわけ重要である。強いストレスをもたらすできごとによる精神の変調として、適応障害、急性ストレス障害、心的外傷後ストレス障害、解離性障害、転換性障害などをとりあげ、その症状・経過・治療について学ぶ。

【キーワード】
適応障害、ストレス障害、PTSD、解離性障害、転換性障害

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第9回　身体疾患と精神疾患

精神医学における心身相関現象に注目し、双方向的に検討する。身体疾患に起因する精神疾患の例として症状精神疾患や器質性精神疾患について学ぶ。また、心理社会的要因に影響される身体疾患の病態、すなわち心身症について学ぶ。

【キーワード】
器質性精神障害、症状性精神障害、てんかん、心身症、ライフイベント・ストレス

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第10回　アルコールと薬物

わが国におけるアルコール関連問題の現状を知るとともに、アルコール依存症の症状・経過・治療について学び、断酒会活動の意義について理解する。また、覚醒剤のもたらす精神症状とその危険について学ぶ。

【キーワード】
アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存と身体的依存、断酒会、覚醒剤、行為依存

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第11回　発達障害

発達障害の概念を理解し、自閉スペクトラム症やADHDなど主な発達障害の特徴と療育の原則を学ぶ。また発達期の諸問題に対する対応の原則を学ぶ。

【キーワード】
発達障害、環境調整、社会的障壁、自閉スペクトラム症、ADHD、共同作業、成功体験

執筆担当講師名：広瀬　宏之（横須賀市療育相談センター所長）
放送担当講師名：広瀬　宏之（横須賀市療育相談センター所長）

第12回　摂食障害とパーソナリティ障害

思春期・青年期に関連の深い精神疾患である摂食障害（神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害）について学ぶ。また、パーソナリティ障害についてDSMの分類に沿って学び、境界性パーソナリティ障害などの概要を理解する。

【キーワード】
摂食障害、神経性やせ症、神経性過食症、パーソナリティ、境界性パーソナリティ障害

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第13回　老年期と精神疾患

老年期の精神疾患について認知症を中心に学ぶ。アルツハイマー型、前頭側頭型、レビー小体型など各種認知症の特徴を知るとともに、随伴症状とその対応原則を理解する。

【キーワード】
認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症、前頭側頭認知症、せん妄、うつ病

執筆担当講師名：白石　弘巳（なでしこメンタルクリニック院長、東洋大学名誉教授）
放送担当講師名：白石　弘巳（なでしこメンタルクリニック院長、東洋大学名誉教授）

第14回　精神疾患をとりまく法と制度

精神疾患をとりまく法制度や社会資源について学ぶ。精神保健福祉法の沿革と内容、非自発的入院を含む入院手続き、障害者総合支援法、医療観察法、成年後見制度などについて学び、歴史的経緯と将来に向けての課題を検討する。

【キーワード】
精神保健福祉法、非自発的入院、障害者総合支援法、医療観察法、成年後見制度

執筆担当講師名：白石　弘巳（なでしこメンタルクリニック院長、東洋大学名誉教授）
放送担当講師名：白石　弘巳（なでしこメンタルクリニック院長、東洋大学名誉教授）

第15回　精神医学の過去・現在・未来

わが国と世界における精神医学の歴史を展望し、学習のまとめとする。科学技術は飛躍的に発展したが、精神医学は未解決の難問を多く抱えている。とりわけ精神障害者に対する人道的処遇の歴史は浅く、スティグマ克服が今後の課題であることを銘記したい。

【キーワード】
アニミズム、科学的精神医学、身体主義と心理主義、スティグマ、ケネディ教書

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

戻る

死生学のフィールド（’18）

Fields of Death Studies (’18)

主任講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）、山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授）

【講義概要】
現代日本社会で死と向きあい、自らの生を生ききるうえで必須の教養である死生学をテーマとする。6人の講師がそれぞれの専門性を踏まえ、出産・生殖、老い、病い、看護・介護、看取り、自死、戦争、死別悲嘆、弔い、いのちの教育など、死生にまつわる現場（フィールド）を幅広く取り上げて論じる。本科目は2014～2017年度に開講された「死生学入門」と相互補完的な関係にある。

【授業の目標】
さまざまな死生の現場で直面する問題について知識を習得するとともに、自らが直面する生き死にの問題について避けることなく取り組み、人生を切り開いていくための死生観や問題対応能力を養うことをめざす。

【履修上の留意点】
履修の条件や制約は特にないが、それぞれの関心に応じて、医療・看護・宗教・哲学・倫理学・社会学など関連分野の科目を広く学習することが望ましい。
※この科目は、2016年度以降のカリキュラムの方においては生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	ラジオ
放送時間	2023年度［第1学期］（日曜） 17:15～18:00
単位認定試験日／時限	2023/07/21　1時限 （09:15～10:05）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　総合科目　生活と福祉
科目コード	1910027
ナンバリング	420
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（93.5点） 2021年度2学期（90.7点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回　死生学のフィールド

死生学は実践的・学際的・実存的な学問であり、現代社会のさまざまな死生の現場における課題に応じて、幅広いテーマをカバーしている。死生学は死生にまつわる課題に光をあてるだけでなく、現代社会に生まれ、生き、病み、老い、死にゆく一人の人間として、そうした課題とどう向きあうのかを考えさせ、行動を促していく学問であることを確認する。

【キーワード】
実践・学際・実存、死生観、臨床死生学、私的な死と公的な死、現場（フィールド）

執筆担当講師名：山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）
放送担当講師名：山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）

第2回　死生・宗教・スピリチュアリティ

宗教は人々の死生観に大きな影響を与えてきた。これに対する無神論・無宗教の立場も、それ自体ひとつの対抗的な死生観を提示するものと言える。ここでは、仏教とキリスト教をとりあげ、その死生観の特徴について見るとともに、現代のスピリチュアリティの流れについて概観する。

【キーワード】
宗教、無神論、仏教、キリスト教、スピリチュアリティ

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第3回　日本人の死生観

日本人の死生観は、時代と共にさまざまな変遷を遂げてきた。明治以降の混乱を経て第二次世界大戦の終結に至る過程では、一定の死生観が国家によって国民に押しつけられ、戦後にはその反動として死生観がほとんど語られない時期があった。そのような変遷と最近における死生観復権のきざしを概覧する。

【キーワード】
祖霊崇拝、神道、国家神道、死の否認と躁的防衛、死生観の復権

執筆担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）
放送担当講師名：石丸　昌彦（放送大学教授）

第4回　マスメディアで死生について考える

マスメディアには死生に関する情報が溢れており、それらが読者や視聴者の死生観に作用しうる可能性がうかがえる。死生を題材にしたマスメディアは、いかに認識されうるのか。いかにマスメディアを活用すれば、死生に関する考察を深められるのか。大衆メディアであるマンガを題材にした死生の考察の具体例を示し、その可能性と留意点を確認する。

【キーワード】

マスメディア、死のポルノグラフィー、死のガイドライン、マンガ、メディア・リテラシー

執筆担当講師名：山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）
放送担当講師名：山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）

第5回　選択される命

堕胎・間引きの時代を経て人工妊娠中絶へ、子どもの命は時代を超えて選択され続けてきた。子どもの命が、どのように認識され選び取られてきたかについて考える。また、供養の対象とされなかった胎児が、供養の対象となった経緯に関して、水子供養の成立との関係で考察する。

【キーワード】
子どもの命の選択、胎児観、水子供養

執筆担当講師名：鈴木　由利子（宮城学院女子大学非常勤講師）
放送担当講師名：鈴木　由利子（宮城学院女子大学非常勤講師）

第6回　流産・死産をめぐる胎児観

誕生が待たれる我が子が流産・死産した時、家族は強い悲嘆を経験するが、それは胎児に確かな命を認識している証でもある。多産多死時代の子どもの葬法を手掛かりとして、胎児や霊魂に関する認識の変遷を読み解き、悲嘆と癒しの共通点と相違点を考える。

【キーワード】
胎児生命、霊魂観、子どもの葬法

執筆担当講師名：鈴木　由利子（宮城学院女子大学非常勤講師）
放送担当講師名：鈴木　由利子（宮城学院女子大学非常勤講師）

第7回　老いと病と死
ーフレイルの知見を臨床に活かす

超高齢社会が進展する現代、老化・老衰の科学も進展している。加齢によって変化した身体には若年者とは異なる医療が必要となる。最新の医科学的な知見を踏まえ、高齢者に対する過少でも過剰でもない医療のあり方を医学的・倫理的に考察する。

【キーワード】
超高齢社会、フレイル、老衰、エイジズム

執筆担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）
放送担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）

第8回　いのちの臨床倫理
ー高齢者における人工的水分・栄養補給法の問題を題材に

高齢者が人生の最終段階において摂食嚥下困難となった場合に、胃ろう栄養法を含む人工的水分・栄養補給法を用いるかどうかという一般的な問題を題材に、「いのち」の尊厳を守る医療とケアについて、臨床倫理の考え方に沿って具体的に考察する。

【キーワード】
延命医療、リビングウィル、ACP、生命維持装置

執筆担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）
放送担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）

第9回　エンドオブライフ・ケア
ー尊厳ある最期とは

最期のときまで本人らしく尊厳を保って生きることを支援するため、がん患者を対象とするホスピスが創設され、その精神がもとになって、疾患の種類や病期を問わない緩和ケアが発展してきた。しかし、なかには最期を自身でコントロールするために安楽死を望む人もいる。「尊厳ある最期」とは何か。その多義性を考察する。

【キーワード】
緩和ケア、ホスピス、尊厳死、安楽死

執筆担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）
放送担当講師名：会田　薫子（東京大学特任教授）

第10回　喪失と悲嘆

人生の中で私たちはさまざまなものを失い、そして嘆き悲しむ。喪失と悲嘆に関連する用語と概念を踏まえた上で、通常の悲嘆と複雑性悲嘆、悲嘆のプロセスについて解説するとともに、人間的成長という観点から死別体験を考える。

【キーワード】
喪失、悲嘆、死別、人間的成長

執筆担当講師名：坂口　幸弘（関西学院大学教授）
放送担当講師名：坂口　幸弘（関西学院大学教授）

第11回　グリーフケア

死別による悲嘆を抱えた人々への支援を一般的に意味するグリーフケアについて、基本的な考え方や方法を整理するとともに、セルフヘルプ・グループや、ホスピス・緩和ケア、葬儀社での実践的な取り組みを紹介

する。

【キーワード】
グリーフケア、遺族ケア、セルフヘルプ・グループ、ホスピス・緩和ケア、葬儀

執筆担当講師名：坂口　幸弘（関西学院大学教授）
放送担当講師名：坂口　幸弘（関西学院大学教授）

第12回　デス・エデュケーション

デス・エデュケーションのこれまでを概観し、そのうえで教育現場における必要性と有用性について考える。あわせて、いのちの教育、悲嘆教育を取り上げ、発達援助活動としてのデス・エデュケーションのこれからについて言及する。

【キーワード】
デス・エデュケーション、死生観、いのちの教育、悲嘆教育、発達援助活動

執筆担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）
放送担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）

第13回　自死遺族・遺児支援

我が国における深刻な自死の現状を踏まえ、社会的な課題としての自死遺族・遺児支援について考える。当事者が必要とする支援を検討し、それを行う際、私たちが留意しなければならないことは何かなどについて具体的に考える。

【キーワード】
自死遺族・遺児、関係存在、個別性、死に別れの悲しみ、配慮的な支援

執筆担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）
放送担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）

第14回　戦争と死、喪失

戦争は大規模な人為的暴力の典型であり、はかり知れないほどの多くのいのちと、その他の身体的、精神的な喪失をもたらす。アウシュヴィッツに象徴されるホロコーストという出来事を軸に、暗闇から学ぶ意味、人間の善意に寄せる期待について考える。

【キーワード】
人為的暴力、いのちの共生、選別、ホロコースト、アウシュヴィッツ

執筆担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）
放送担当講師名：鈴木　康明（東京福祉大学教授）

第15回　死生学とコミュニティ

死別体験者の支援を軸に、死生学とコミュニティの関係を論じる。喪失や悲しみなど人を苦しめ孤立させ得るものが、私たちの考え方や地域社会のあり方を変えることで、新たな人間関係に基づくコミュニティの創出につながる可能性を検討する。また、全15回の簡単なまとめも行う。

【キーワード】
死別体験、コミュニティ、協働、共感都市、社会死生学

執筆担当講師名：山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）
放送担当講師名：）山崎　浩司（静岡社会健康医学大学院大学教授 ）

戻る

老年看護学（’19）

Gerontological Nursing(’19)

主任講師名：井出　訓（放送大学教授）

メディア	ラジオ
放送時間	2023年度［第1学期］（木曜） 18:45～19:30
単位認定試験日／時限	2023/07/18　5時限 （14:25～15:15）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目
科目コード	1887378
ナンバリング	
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（79.7点） 2021年度2学期（92.3点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	老年看護学（’13）の単位修得者は履修不可

【講義概要】
本科目は、老年期を生きることの意味と価値との理解を深め、生物学的な老化から高齢者施策を含む社会的な視点に立ちつつ高齢者を捉えながら、老いを生きる人々への看護を考えていく授業である。授業の構成としては、老年看護学が対象とする高齢者の生活と健康を、高齢期に体験される「老い」という視点から理解した上で、加齢に伴う心身の変化の特徴を、全人的な多角的観点から学習する。さらに、高齢者の権利擁護、老年期における生活機能の管理、老年期に特有の疾病・症候と看護支援、認知症高齢者へのケア、要介護高齢者へと家族への支援、最後に高齢者の終末期ケアについて学習する。

【授業の目標】
老年期を生きる高齢者の理解を深め、看護者として高齢者にかかわるために必要とされる知識、技術と理念の統合に向けた基盤づくりを図る。また、一般的な高齢者に対する固定観念にとらわれることなく、個性豊かな高齢者の姿を捉える視点を学習する。さらに、老年期におこる特徴的な心身の変化への理解を深めるとともに、生涯発達という視点から人間としての豊かな暮らしを成就していく老年期を生きる高齢者の姿を学習し、終末期をも含めた高齢者の健康生活を支える看護実践にむけた基本的知識の習得を目的とする。

【履修上の留意点】
看護師国家試験の試験科目ともなる老年看護学の基本的事項に焦点を当てている。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。
※本科目は、看護師資格取得に資する科目ですが、コース科目（うち他コース開設）において修得すべき最低単位数として卒業要件に算入されます。

各回のテーマと授業内容

第1回　老年期を生きる高齢者の理解と老年看護の理念
老年看護の役割

老年看護学を学び始める入り口として、老いるとはどのようなことかを紐解きながら今日の社会で老年期を迎え生きる人々への理解を深めていくとともに、高齢者の生活を支援する看護のありかたを解説する。また、老年看護における対象者の特性、ならびに老年看護の理念と目標について述べる。

【キーワード】
加齢と老い、発達、老年期、人生の統合、健康維持、アドボカシー

執筆担当講師名：井出　訓（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓（放送大学教授）

第2回　高齢者施策と社会保障制度

日本の高齢者施策と社会保障制度の動向について、超高齢者の現況を踏まえた上で、地域共生社会と地域包括ケアシステム、介護保険法・制度、高齢者医療確保法、後期高齢者医療制度、オレンジプランを中心に概説する。さらに高齢者ケアにおいて欠かせない多職種連携と看護の役割について述べる。

【キーワード】
超高齢社会、地域共生社会、地域包括ケアシステム、介護保険法・制度、オレンジプラン、多職種連携

執筆担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）
放送担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）

第3回　加齢に伴う健康の変化と看護ケア

加齢に伴って変化する身体的、精神的、社会的機能の特徴と、高齢者の健康障害・疾病の特徴について、老年症候群、フレイル等の主要概念から概説する。さらに、高齢者の看護ケアに欠かせない高齢者総合機能評価（CGA）の視点とポイントについて述べる。

【キーワード】
加齢に伴う諸機能の変化、老年症候群、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、高齢者総合機能評価（CGA）

執筆担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）
放送担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）

第4回　高齢者の生活を支える看護1
ー生活アセスメント

高齢者が日常生活を営む上での生活リズムの特徴とリズム調整の意義とを説明し、リズムの乱れを生み出す行動のアセスメントや、生活場面からみえる病態変化の徴候について学習する。また、高齢者の生活リズムを整え、活動や参加を促進する看護支援について考察する。

【キーワード】
生活リズム、活動と休息、ADL、病態アセスメント

執筆担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）
放送担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）

第5回　高齢者の生活を支える看護2
ー食事

高齢者に見られる特徴的な歯・口腔の変化や、咀嚼、摂食・嚥下のプロセスにおける障害の発生と影響要因を解説する。摂食嚥下、また栄養状態のアセスメントとともに、高齢者の誤嚥性肺炎の予防および食支援に関する看護ケアについて学習する。

【キーワード】
摂食嚥下障害、口腔・嚥下機能アセスメント、栄養状態、誤嚥性肺炎、オーラルマネジメント、食支援

執筆担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）
放送担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）

第6回　高齢者の生活を支える看護3
ースキンケア

高齢者に特徴的な皮膚の変化について解説し、皮膚のアセスメント、スキンテアおよびスキンケア、褥瘡や失禁関連皮膚炎への対策方法について述べる。

【キーワード】
スキンケア、褥瘡ケア、スキンテア、失禁関連皮膚炎

執筆担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)
放送担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)

第7回　高齢者の生活を支える看護4
ー排尿

高齢者の排尿機能の加齢変化と下部尿路症状と下部尿路機能障害、その特徴と影響要因について解説し、排尿のアセスメントと看護の援助について学習する。

【キーワード】
下部尿路機能と加齢変化・排尿機能のアセスメント、排尿ケア、尿路感染の予防

執筆担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)
放送担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)

第8回　高齢者の生活を支える看護5
ー高齢者の排泄と性

高齢者の排泄（排便）機能の障害と加齢に伴う排便の特徴について解説し、排便のアセスメントと看護の援助について学習する。また、高齢者の性にまつわる諸問題を、身体的、精神的、社会的、また文化的な側面から捉え直すことで、看護対象としての高齢者の性のあり方に関する理解を深め、ケアのあり方を考察する。

【キーワード】
排便機能と加齢変化・排便機能のアセスメント、排便ケア、ジェンダー、セクシャリティ

執筆担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)
放送担当講師名：谷口　珠実(山梨大学教授)

第9回　老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援1
ー脳神経・認知機能

高齢者の脳神経系、認知機能系障害と影響要因にいつて解説し、高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的、社会的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また、疾病に伴う高齢者の生活障害にむけた看護支援について述べる。

【キーワード】
脳卒中、パーキンソン病、高次脳機能障害、せん妄

執筆担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）

第10回　老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援2
ーリハビリテーション

老年期におけるADL、IADLと生活意欲の捉え方について述べ、ADLの拡大、生活意欲の向上に向けた看護支援や評価のあり方について解説するとともに、高齢者の自律した生活をめざす。また、介護の重度化予防を踏まえた看護援助の意義について述べる。

【キーワード】
リハビリテーション、生活機能障害、ADL、IADL、FIM、生活意欲、うつ、介護予防

執筆担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）

第11回　老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援3 ー薬物療法

老化に伴う排泄機能の変化とともに、薬物の代謝に関する変化を解説する。また、薬剤間の相互作用や高齢期に特有の副作用の出現など、老年期における薬物治療に関する注意点を述べるとともに、看護が着目すべき点とケアのあり方について解説する。

【キーワード】
多剤併用、吸収、分布、代謝、排泄

執筆担当講師名：井出　訓（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓（放送大学教授）

第12回　認知症高齢者への看護ケア

認知症とは何かという基本構造を解説し、認知症高齢者を中心としたケアのあり方について述べる。また、新オレンジプランなどの施策が変化し、地域包括ケアシステムが構築される中での看護師が果たす役割と担うべきケアとを確認しつつ、実例を交えながら認知症の人への先駆的ケアを紹介する。その上で、認知症高齢者のケアの基盤となる環境調整ととコミュニケーションのあり方を説明し、虐待などの不適切なケアを防ぐためのかかわり方を理解する。また、認知症の人の安定した暮らしの継続に向けたチームアプローチについて解説し、看護師の具体的な活動の様子を実例から紹介する。

【キーワード】
認知症ケア、中核症状と周辺症状、日常生活支援、地域包括ケア、新オレンジプラン、虐待防止、チームアプローチ

執筆担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ（大阪大学准教授）

第13回　高齢者、およびその家族への看護

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続ける意義を解説するとともに、在宅生活を継続するために必要な家族および地域への看護活動について学習する。また、家族を含めた看護援助のプロセスを説明し、他職種との協働による支援のあり方や地域づくりについて考察する。

【キーワード】
在宅生活、家族、家族支援、他職種との協働、地域づくり

執筆担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）
放送担当講師名：山田　正己（帝京科学大学講師）

第14回　高齢者とリスクマネジメントと権利擁護

高齢者の入院に伴うリスクと、災害時に遭遇するリスクを取り上げ、看護ケアのポイントについて概説する。また高齢者の尊厳を守る考え方としてパーソン・センタード・ケア、価値に基づく実践（VBP）について紹介し、高齢者虐待防止法、成年後見制度などの権利擁護の法制度・事業について述べる。

【キーワード】
医原性有害事象（医療事故）、災害、認知症、パーソン・センタード・ケア、価値に基づく実践（VBP）、権利擁護の制度

執筆担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）
放送担当講師名：松岡　千代（甲南女子大学教授）

第15回　終末期を支える看護

生まれ、成長し、老いて、死ぬ人の人生において、老年期という人生の終盤をいかに豊かに生きるか。人間の発達という視点から老いを考えつつ、発達の最終段階としての老年期を生きる高齢者の支援について、また看とる家族へのかかわりについて解説し、高齢者の終末期看護について考察する。

【キーワード】
老年期、発達、終末期ケア、リビングウイル、看とり

執筆担当講師名：井出　訓（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓（放送大学教授）

戻る

認知症と生きる（’２１）

Living with Dementia (’21)

主任講師名：井出　訓（放送大学教授）、山川　みやえ（大阪大学准教授）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（月曜） 16:30〜17:15
単位認定試験日／時限	2023/07/22　8時限 （17:55〜18:45）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　生活と福祉
科目コード	1519352
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（81点） 2021年度2学期（94.5点）
インターネット配信	あり
改訂回	全15回
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
近年の高齢者数の増加に伴い、健康な高齢者ばかりではなく、疾病や障害を持ちながら生活を続ける高齢者の数も増加している。特に認知症高齢者の数は2015年に345万人、2020年には410万人になるとの予測がなされている。さらに高齢者だけでなく、若年性認知症による社会へのインパクトも大きい。まさに「社会の病気」となっていることが認知症をとりまく現状であるが、認知症とは何か、という本質的な問いにはまだ到達できていない。発症前の予防から看取りまでの個人のライフヒストリーやそこに影響を及ぼす支援者や社会の在り方を、時系列的に理解し、歳をとるとなりやすくなる認知症になっても、認知症と共に生きるために必要なことを、先駆的な取り組みをしている実践家の言葉を知ることによって学習する。

【授業の目標】
認知症とはどういうことか、医学的、社会学的、個人の人生というそれぞれの視点から理解する。
認知症者の発症前から、診断、診断後の生活の変化、様々な困難な状況、看取りという進行性の疾患としての一連の流れの中から、その都度あるべきサポートの方法を考えられる。
認知症の有無にかかわらず、どんな状態になっても暮らしやすいまちづくりの実現にむけた取り組みを学ぶことができる。
認知症をとりまく社会システムや制度などの様々な取り組みを知り、それぞれのメリットデメリットを認知症と生きる人の立場で学ぶことができる。

【履修上の留意点】
受講に先立つ予備的な専門知識は特に必要としないが、各々の関心に応じて広く関連事項を学んでいくことを期待する。また、それぞれが暮らす地域での取り組みなど身近な問題として視野をひろげつつ考察を深めてほしい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。
※この科目は、生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。

各回のテーマと授業内容

第1回　現代社会における認知症

我が国は65歳以上の高齢者の10人に1人は認知症を有する時代を迎えている。認知症は医学的な定義をもとに診療が進められるが、生活への影響が大きいことから、様々な場面で認知症に関する人々の関心も高まっている。そのような潮流から認知症における社会施策であるオレンジプランも変化してきた。そのあたりを踏まえつつ、認知症についての課題や将来展望を考察する。

【キーワード】
認知症の定義、歴史、高齢化社会での認知症との関係、社会施策

執筆担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）

第2回　認知症の人のライフヒストリーと地域包括ケアシステム

認知症の人のライフヒストリーについて、発症前の生活から発症後どのように変化したのかについて事例を通して概観し、社会の問題になってしまった認知症への関わり方、地域包括ケアシステムの重要性を述べる。

【キーワード】
地域包括ケアシステム、ライフヒストリー

執筆担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）

第3回　認知症の発症予防と普段からの健康管理

認知症は加齢とともになる割合が非常に高まるので、避けることが難しいが、理論的に予防可能な認知症もあるので勉強する。そして認知症を発症しても良いように、日常的にしておくべき健康管理方法を述べる。

【キーワード】

脳血管性認知症、認知症予防、自己管理

執筆担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）
放送担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）

第4回　認知症の発症と医療の在り方

認知症になったかもと思う状況は人それぞれであるが、通常のもの忘れとは異なる状況にある人への医療へのかかり方について理解し、徐々に前向きになるための認知症診断の告知の在り方を述べる。

【キーワード】
鑑別診断、認知症の初期症状、告知、軽度認知機能障害

執筆担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）
放送担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）

第5回　認知症と生きるうえでの認知症の理解

現在社会問題になっているのは進行性の認知症であり、そのことをどのように受け入れながら人生を進めていくのか、どのように向き合えばよいのかをさまざまな認知症の特徴を解説しながら述べる。

【キーワード】
認知症分類、進行性の疾患、症状

執筆担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）
放送担当講師名：繁信　和恵
（大阪大学特任講師）

第6回　認知症を生きる当事者の思い

実際に認知症になった人の気持ち、その変化、受け入れ方などを、当事者の言葉から理解する。また、当事者としての家族にも着目し、共に認知症を生きる当事者としての家族について学習する。

【キーワード】
当事者視点、気持ちの変化、家族、本人

執筆担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）

第7回　認知症診断後の生活の変化に対応できる取り組み１

認知症になっても自分は変わらないのに周りが変わってきてしまう。介護保険サービスは使いたくないという人など様々な人がいるが、その中での地域包括ケアシステムを回すための先進的な取り組みを紹介する。ここでは、認知症への偏見や誤解に焦点を当て、当事者参画に関する取り組みについて紹介する。

【キーワード】
認知症への偏見や誤解、早期診断、当事者参画、就労支援、自己実現の取り組み

執筆担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）
放送担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）

第8回　認知症診断後の生活の変化に対応できる取り組み２

認知症になっても自分は変わらないのに周りが変わってきてしまう。介護保険サービスは使いたくないという人など様々な人がいるが、その中での地域包括ケアシステムを回すための先進的な取り組みを紹介する。ここでは、認知症を社会課題として捉えた事例に焦点を当て、地域づくりの取り組みや仕掛けを紹介する。

【キーワード】
医学モデルと社会モデル、認知症フレンドリー社会、DFC、自治体、地域づくり

執筆担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）
放送担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）

第9回　公的制度による認知症のサポート

認知症は早期から介護保険の利用が進められているが、本人にとってより良い公的制度の利用の仕方、多職種連携とその課題について述べる。

【キーワード】
介護保険、多職種連携、介護サービス、ケアマネジメント

執筆担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）

放送担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）

第10回　認知症になっても不自由しない居場所づくり

認知症をきっかけに、様々な生活への不具合を抱えている人がどこに行っても良いようにするための居場所づくりも進んでいる。その活動を紹介するとともに、居場所が地域で果たす役割や、地域に浸透するための方策を学習する。

【キーワード】
居場所、認知症カフェ

執筆担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）
放送担当講師名：井出　訓
（放送大学教授）

第11回　ICTを取り入れた、認知症の進行に伴ったケアの実践

進行に伴い認知機能が徐々に低下するたびに、行動・精神症状と呼ばれる症状がおこり、生活リズムの変化なども起こりやすい。そのようなときにテクノロジーをつかって解決する方法を紹介する。

【キーワード】
睡眠モニタリングテレノイド、ICTの活用

執筆担当講師名：樋上　容子
（大阪医科薬科大学講師）
放送担当講師名：樋上　容子
（大阪医科薬科大学講師）

第12回　認知症の医療介護連携から看取り事例

進行に伴って変化する精神症状、身体的変化などに伴って利用できるサービスを適時に取り入れたり、地域医療介護ネットワークの構築について学ぶ。

【キーワード】
地域医療、医療介護連携、地域ネットワーク

執筆担当講師名：樋上　容子
（大阪医科薬科大学講師）
放送担当講師名：樋上　容子
（大阪医科薬科大学講師）

第13回　認知症の人に寄り添うための人材育成：専門職

認知症ケアにおける問題は、そのほとんどが認知症者の世界を理解できずに、ケア者の時間の流れや考えをもとに実施してしまうことによって起こる。ここでは、相手の立場に立ち、専門的アセスメントを発展させられるような取り組みを紹介する。

【キーワード】
VR認知症、生活アセスメント

執筆担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）

第14回　認知症の人に寄り添うための人材育成：地域住民

認知症の人が地域や社会の中で暮らし続けるには、地域住民を含めた周囲の人々への意識啓発を含めた教育的な取り組みが欠かせない。ここでは、特に地域住民を対象とした取り組みを紹介する。

【キーワード】
認知症サポーター、地域住民、住民参加型ワークショップ、他人事と自分事

執筆担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）
放送担当講師名：河野　禎之
（筑波大学助教）

第15回　認知症をきっかけとした地域共生の展望

生活上不具合をおこす健康問題は認知症だけではないが、高齢化に伴い増加する認知症をきっかけとして、誰にでもすみやすい社会を創れることが、今後の超高齢社会での我が国の発展につながる。多世代を巻き込んだ地域共生について述べる。

【キーワード】
多世代交流、地域共生

執筆担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）
放送担当講師名：山川　みやえ
（大阪大学准教授）

公衆衛生（’19）

Public Health (’19)

主任講師名：田城　孝雄（放送大学教授）、横山　和仁（国際医療福祉大学大学院教授、順天堂大学客員教授）

メディア	ラジオ
放送時間	2023年度［第1学期］（水曜） 20:15～21:00
単位認定試験日／時限	2023/07/20　2時限 （10:25～11:15）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　生活と福祉
科目コード	1519166
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（91点） 2021年度2学期（85.3点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	公衆衛生（’15）の単位修得者は履修不可

【講義概要】
公衆衛生学は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、医学・医療が社会と関わる領域の学問である。病気の人ひとりひとりを対象とするのではなく、人々の集まりとして社会を見ていく。在宅医療、地域保健、途上国などの現場で問題解決のために実際の活動を行うのも特徴である。

【授業の目標】
公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。15回の講義を通じて、公衆衛生学について理解することを目標とする。

【履修上の留意点】
「感染症と生体防御」および「健康長寿のためのスポートロジー」も履修することが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　公衆衛生学の基礎
プライマリヘルスケア

公衆衛生学は、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的健康と様々な分野との組織的な活動を行う科学である。公衆衛生学の基礎として、プライマリヘルスケアについて解説する。プライマリヘルスケアは、社会に受け入れられる手順と技術に基づいたヘルスケアであり、ニーズ指向性、住民の主体的参加、資源の有効活用、協調・統合を原則とする。

【キーワード】
プライマリヘルスケア、住民参加、ニーズ指向性、健康

執筆担当講師名：横山　和仁(国際医療福祉大学大学院教授・順天堂大学客員教授)
放送担当講師名：横山　和仁（国際医療福祉大学大学院教授・順天堂大学客員教授）

第2回　健康と環境

ヒトの健康に影響を与える環境について講義する。環境は、人間を含む生物を取り巻く全てであり、ヒトの健康に影響を及ぼすと同時に、人間の活動により汚染される。これらの関係を理解するために、環境の変化に対する生体の反応、物理的・化学的・生物的環境要因の概要、公害・地球環境問題と環境管理について学ぶ。

【キーワード】
恒常性、量ー影響関係、量ー反応関係、環境汚染、地球環境問題

執筆担当講師名：篠原　厚子（清泉女子大学教授）
放送担当講師名：篠原　厚子（清泉女子大学教授）

第3回　疫学と健康指標

公衆衛生学の基本となる疫学について解説する。また各種の健康指標について解説する。公衆衛生学の基本となる疫学は人間の集団を対象として、疾病の頻度や発生を把握し、その要因を科学的に明らかにする学問である。疫学研究から予防対策を立てるために役立つ情報が得られる。疫学の基礎的な概念と考え方、予防医学の考え方を理解する。また、我が国の衛生関係統計資料の概要と主要な健康指標について解説する。

【キーワード】
疫病頻度、有病率、罹患率、症例対照研究、コホート研究、因果関係、衛生統計

執筆担当講師名：黒澤　美智子(順天堂大学准教授)
放送担当講師名：黒澤　美智子(順天堂大学准教授)

第4回　健康づくり

地域住民の健康づくりについて解説する。急増する生活習慣病、少子高齢化に伴う社会保障費の増大など様々な課題を背景に、近年、健康づくりに対する関心が急速に高まっている。この回では主として公衆衛生学の観点から、リスク要因と健康増進要因への対処、リスクの高い個人と一般集団への対処など、健康づくりの多様なアプローチを学び、健康づくりの政策や実践へ応用できる解決策を考える。

【キーワード】
疾病生成論、健康生成論、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、ヘルスプロテクション、ヘルスプロモーション

執筆担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）
放送担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）

第5回　日本の社会保障制度と医療制度

社会保障制度について説明し、各法律について解説する。社会保障制度は、個人の努力では対処できない事象に対して、社会全体で生活を保障する制度である。日本国憲法25条を根拠とする。我が国の医療制度について説明する。医療提供体制の解説と、医療保険制度、国民皆保険について講義する。

【キーワード】
社会保障制度、日本国憲法25条、医療提供体制、医療保険制度、国民皆保険

執筆担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）
放送担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）

第6回　グローバル化する世界の公衆衛生・国際協力

グローバル化する世界の中での公衆衛生学の活動を紹介する。新興感染症の蔓延やバイオテロへの防御、地球温暖化や経済格差に起因する健康影響など、今日の健康を取り囲む諸問題には、国境を越え、地球規模で協力して取り組むべき対応が求められている。この回では、国際機関や二国間援助、NGOや民間企業による国際協力など、グローバルヘルスにおける最新の動向とその対応策を学ぶ。

【キーワード】
グローバルヘルス、国際保健、国連ミレニアム開発目標、官民連携

執筆担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）
放送担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）

第7回　地域保健・健康づくりと地域

地域住民全体を視野においた組織的な活動である地域保健について解説する。地域保健の対象者は、地域住民の全てであり、その全てのライフステージが対象となる。地域保健法は、都道府県と市区町村の役割分担を見直すものである。地域保健法を解説し、保健所と市町村保健センターの役割について講義する。

【キーワード】
地域保健法、保健所、市町村保健センター

執筆担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）
放送担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）

第8回　母子保健

子育て支援を含む母子保健活動について解説し、あわせて少子高齢化対策に関しても解説する。我が国の母子保健体制は、妊娠、出産から幼児期に至るまで予防、治療から養育を含む包括的施策から成り、戦後日本の母子保健水準の向上に大きく寄与してきた。この回では、母子保健法に基づく公的事業のほか、愛育会などの住民参加による子育て支援の地域活動についても学び、母子保健対策の概要を展望する。また、近年社会的関心を集めている幼児虐待や不妊治療・生殖補助医療の現状についても学ぶ。

【キーワード】
母子保健法、母子健康手帳、妊婦健診、乳幼児健診、未熟児養育医療、幼児虐待、不妊治療

執筆担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）
放送担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）

第9回　成人保健・老人保健

生活習慣病、認知症など、我が国の大きな課題に対する保健活動に関して解説する。社会の高齢化により、ライフスタイルの変化、疾病構造の変化により、がん・心臓病・脳卒中などの生活習慣病が死因の上位を占めるようになった。また、寝たきりや認知症高齢者など介護を必要とする人々が増加している。このような健康課題に対応する成人保健、老人保健制度について解説する。

【キーワード】
生活習慣病、ライフスタイルの変化、介護保険、認知症

執筆担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）
放送担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）

第10回　精神保健

近年、世界的な規模での急激な情報化、および社会経済の変化に伴う人々の心理社会的ストレスは増大する傾向にある。このような状況の中で、人々の精神的健康の維持・増進を図り、様々なストレス反応や不適応状態に対応する精神保健の重要性は高まっている。家庭、学校、職場、近隣地域での生活の場でどのような精神保健上の問題が生じているのかを明らかにし、それぞれの問題にどのように対応すれば良いのかを検討する。また、精神医学的知識に基づく医療現場における身体疾患患者への危機介入、医療者のメンタルヘルス、災害時のメンタルヘルスケアについて実践的な内容を学習する。

【キーワード】
ストレス、精神的健康、メンタルヘルスケア、生活の場、危機介入

執筆担当講師名：浦川　加代子（パブリックヘルスリサーチセンター　ストレス科学研究所　客員研究員
放送担当講師名：浦川　加代子（パブリックヘルスリサーチセンター　ストレス科学研究所　客員研究員）

第11回　難病保健

難病による障害者対策である難病保健について解説し、難病ケアシステムの必要性について解説する。難病という名の疾病は存在しないが、我が国では「難病」を原因不明、治療方針未確定で後遺症を残す恐れが少なくない疾病、経過が慢性にわたり経済的な問題のみならず介護等による家族の負担が重く、精神的にも負担の大きい疾病として、様々な対策がとられている。難病対策の概要と難病の研究について解説する。

【キーワード】
難病対策、難治性疾患克服研究事業、特定疾患治療研究対象疾患

執筆担当講師名：黒澤　美智子（順天堂大学准教授）
放送担当講師名：黒澤　美智子（順天堂大学准教授）

第12回　感染症対策

感染症の基本知識と予防対策について説明する。感染症対策の法整備の歴史を述べて、さらに最近の新型インフルエンザなど、新興・再興感染症についてと、2007年に改正された感染症法について解説する。さらに結核、HIV・エイズについて解説する。

【キーワード】
感染症、宿主、病原体、感染、発症、感染症法、結核、HIV

執筆担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）
放送担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）

第13回　学校保健

学校における保健教育と保健管理である学校保健について解説する。学童から思春期に至る年齢層は、身体的な著しい成長と精神心理面でも大きく変化する時期でもある。しかも、多様化し変化の激しい社会の影響を受けて、現代を生きる子どもたちは新たな健康課題に直面している。こうした現状を踏まえ、この回では学校保健安全法に基づき実施されている我が国の学校保健施策の概要を学び、同時に現代の子どもたちを取り巻く公衆衛生的課題を取り上げ、現状と課題を理解する。

【キーワード】
学校保健安全法、保健教育、保健管理、思春期保健

執筆担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）
放送担当講師名：湯浅　資之（順天堂大学教授）

第14回　産業保健

労働者の健康障害予防や健康増進を行う産業保健に関して、解説する。昨今の技術革新と時代の変化には目を見張るものがある。それに伴い労働者を取り巻く労働環境も想像以上のスピードで変化している。このような環境の中で働く人々の健康問題において古くから知られている職業病対策に加えて、メンタルヘルス対策をはじめとする新たな問題が浮上し注目を浴びている。働く人々を取り巻く環境について、過去から現在への状況とその対策などについて学んでいく。

【キーワード】
職業病、労働衛生管理、労働安全衛生法

執筆担当講師名：北村　文彦（順天堂大学准教授）
放送担当講師名：北村　文彦（順天堂大学准教授）

第15回　災害保健・健康危機管理

大きな震災に見舞われた日本において、災害発災時の初動体制、避難所における衛生・健康管理、障害者・要介護者・高齢者などの社会的弱者の避難や、支援などの方策を検討する。住民の健康、生命の安全を脅かす危機を未然に防止し、災害発生時に被害を最小限に抑制するために行うべき活動について解説する。放射線障害を含む、様々な健康危機管理について解説する。

【キーワード】
災害、初動体制、避難所、社会的弱者、健康危機管理、放射線障害

執筆担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）
放送担当講師名：田城　孝雄（放送大学教授）

戻る

心理臨床と身体の病（’16）

Clinical Psychology and Physical Illnesses (’16)

主任講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（月曜） 08:15～09:00
単位認定試験日／時限	2023/07/19　2時限 （10:25～11:15）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　心理と教育
科目コード	1529110
ナンバリング	330
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（85.7点） 2021年度2学期（79.1点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
めまぐるしい医療技術の進歩の中で、患者中心の医療が提唱されるようになり、患者はその恩恵を受けると同時に、治療の選択や意思決定が求められ、病とどう向き合っていくかという課題にも直面している。そのような医療現場において、心理士の果たす役割は増えている。本科目では、医療における心理臨床について、がん、HIV/エイズ、周産期、生殖医療、遺伝医療、糖尿病、脳血管障害、更年期障害といったさまざまな領域における患者・家族への支援の実際について学ぶ。

【授業の目標】
医療における心理臨床の領域は、健康維持や予防医療など総合的な支援へと広がり、同時に心理士へのニーズも多様になっている。身体医療における心理臨床について、さまざまな考え方や支援の実際についての理解を深める。医療におけるこれからの心理臨床について、また「身体の病を抱えて生きる」ことを支えるために、心理士に求められることについて考える。

【履修上の留意点】
「臨床心理学概論（’20）」を履修しておくことが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　医療システムにおける心理臨床

医療システムにおけるチーム医療の理解、チーム医療における心理士の役割について学ぶ。また、身体疾患に罹患した患者の心理やリエゾン活動における心理的評価の重要性について学んでいく。

【キーワード】
チーム医療、コンサルテーション・リエゾン、患者の心理、心理教育、家族のケア

執筆担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）
放送担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）
小林　真理子（聖心女子大学教授）

第2回　がんと心理臨床1
ーがん医療の歴史とサイコオンコロジー

わが国では、毎年新たにがんと診断される人は70万人を超え、国民の二人に一人ががんに罹患する可能性があると言われている。国によるがん対策の推進、がんと心の問題を扱うサイコオンコロジーの発展など、がん医療の歴史を中心に学ぶ。

【キーワード】
がん、がん対策基本法、サイコオンコロジー

執筆担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）
放送担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）

第3回　がんと心理臨床2
ー患者の心理と緩和ケア

患者はがんの臨床経過の中でさまざまな体験をする。がんの診断、その後の治療、再発・転移など、それぞれの経過における患者の心理について学ぶ。また、がん医療の進歩とともに発展してきた緩和ケアについて学ぶ。

【キーワード】
がんの臨床経過、包括的アセスメント、緩和ケア

執筆担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）
放送担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）

第4回　がんと心理臨床3
ー患者・家族への心理的支援

患者・家族への心理的支援の実際について概説する。患者・家族への心理的支援は個別による方法のほか、グループによるアプローチが有効な場合がある。また、患者が亡くなった後の家族の悲嘆とその支援についても述べる。

【キーワード】

個別カウンセリング、グループ療法、悲嘆のプロセス

執筆担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）
放送担当講師名：小池　眞規子（目白大学教授）

第5回　がんと心理臨床4
ーがん患者の子どもへの支援

子育て期のがん患者とその子どもへの支援について取り上げる。親のがんが子どもに与える影響や子どもへの告知について概説する。また、子どもへの支援の実際について、サポートグループの実践など最近の取り組みを紹介する。

【キーワード】
子育て期のがん患者、がん患者の子ども、がんを伝える、サポートグループ

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）

第6回　HIV/エイズと心理臨床1
ー現状と課題

HIV/エイズの疫学、医療の動向を押さえつつ、患者とパートナー、家族の長期療養における心理的状態とその援助としての心理臨床の現状と課題について概説する。

【キーワード】
感染症、長期療養、患者の心理、告知、セクシュアリティ

執筆担当講師名：矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）
放送担当講師名：矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）

第7回　HIV/エイズと心理臨床2
ー予防・検査を受けることとは

HIVに関する検査について、現状と課題を押さえながら、「検査を受ける」こととはどういうことか、その時の支援にはどのようなアプローチが重要かについて検討を加える。検査時の予防のあり方についても検討する。

【キーワード】
インフォームドコンセント、検査前・後カウンセリング、リスク軽減

執筆担当講師名：矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）
放送担当講師名：矢永　由里子（慶應義塾大学医学部特任講師）

第8回　周産期医療と心理臨床1
ー周産期心理臨床の意味と意義

妊娠出産を経て、親子が出会っていく時である周産期に、なぜ心理臨床が必要とされるのかを考える。さらに、赤ちゃんがNICU（新生児集中治療室）に入院した場合など、周産期医療の場における心理臨床について学ぶ。

【キーワード】
周産期医療、NICU(新生児集中治療室)、周産期心理士、チーム・アプローチ

執筆担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
放送担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
ゲスト：岡田　由美子（加古川中央市民病院臨床心理士・公認心理師）

第9回　周産期医療と心理臨床2
ー周産期心理臨床の実際

赤ちゃんがNICUに入院しなければならない時、赤ちゃんに疾病や障害が認められる時、赤ちゃんが亡くなってしまう時など、さまざまな状況における周産期心理臨床の実際について学ぶ。

【キーワード】
低出生体重児、関係性の発達、障害のある赤ちゃん、グリーフケア

執筆担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
放送担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
ゲスト：川野　由子（大阪母子保健総合医療センター臨床心理士・公認心理師）

第10回　生殖医療、出生前診断と心理臨床

生殖医療と出生前診断をめぐる医療技術の進歩はめざましいが、一方で、法の整備は進まず、倫理的ディスカッションは十分とは言えない。この領域で心理臨床に携わる時、何を大切にして、どのように関わっていくことが必要なのか、考える。

【キーワード】
不妊、体外受精、出生前診断、NIPT（非侵襲的出生前遺伝学的診断）

執筆担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
放送担当講師名：橋本　洋子（山王教育研究所臨床心理士・公認心理師）
ゲスト：河合　蘭（フリージャーナリスト）

第11回　遺伝医療と心理臨床

病気の遺伝子レベルでの解明が進み、遺伝医療は急速に進歩している。一方で、遺伝情報は個人を超え家

系で共有されるため、患者や家族に困難な課題をもたらすことがある。遺伝カウンセリングの実際について学び、心理臨床の課題と姿勢について考える。

【キーワード】
遺伝性疾患、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理臨床

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
ゲスト：浦野　真理（東京女子医科大学附属病院臨床心理士・公認心理師）

第12回　糖尿病と心理臨床

糖尿病は、慢性の高血糖状態を主な症状とする代謝症候群と定義され、完治する病気ではないとされる。糖尿病の治療やそれに伴う患者の心理について理解し、患者の行動変容を目指し、病を抱えて生きていくことを支える心理的アプローチについて学ぶ。

【キーワード】
糖尿病、セルフケアの支援、エンパワーメント・アプローチ、グループ療法

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）

第13回　脳血管障害と心理臨床

脳血管障害後は、うつ状態や不安症状を呈し、リハビリテーションに支障を生じる場合が少なくない。また、脳血管障害が認知機能に影響を及ぼし、社会復帰への妨げとなる。脳血管障害患者の認知機能を神経心理学的な視点から適切に把握すること、および本人の心理的支援や、家族支援の重要性について学ぶ。

【キーワード】
脳卒中後うつ病、遂行機能障害、神経心理学、心理教育、認知行動療法

執筆担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）
放送担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）

第14回　更年期障害と心理臨床

女性のライフサイクルの中で、更年期は様々なストレスを経験し、身体的にも急激なホルモンの変化や身体機能の低下が始まり負担の多い時期である。更年期女性の心理的ケアの意義とリラクゼーション法の1つである自律訓練法について学ぶ。

【キーワード】
ライフサイクル、更年期障害、ホルモン補充療法、自律訓練法

執筆担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）
放送担当講師名：幸田　るみ子（立正大学教授）

第15回　医療における心理臨床の広がり

医療領域の心理士の活動の現状を理解し、「病いを抱えて生きる」ことを支える心理臨床の姿勢について学ぶ。また、医療における新しい動向も紹介する。放送授業では、5人の担当講師で、『医療における心理士の今後の課題と展望』というテーマで話し合う。

【キーワード】
心理臨床の意義、病い、物語、サバイバーシップ

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
担当講師全員

戻る

乳幼児・児童の心理臨床（’17）

Clinical Psychology for Infants and Children (’17)

主任講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）、塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（日曜） 08:15～09:00
単位認定試験日／時限	2023/07/23　3時限 （11:35～12:25）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　心理と教育
科目コード	1529218
ナンバリング	320
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（95.5点） 2021年度2学期（92.5点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
子どもを取り巻く厳しい現状の中で、子どもを対象として援助活動をしている臨床心理士は多く、その領域は拡大している。
本科目では、前半に総論として、子どもの心の発達および子どもの心理療法の理論と方法について概説する。後半に各論として、保健・保育、教育、医療、福祉のさまざまな領域における子どもと家族への心理的支援の実際を紹介する。また、児童虐待、発達障害、離婚・ひとり親家庭の子ども、震災後の心理支援等のトピックスについても取り上げ、臨床心理士の果たす役割について論じる。

【授業の目標】
乳幼児期・児童期の子どもと家族に対する心理臨床について、さまざまな支援の考え方や支援の実際についての理解を深める。

【履修上の留意点】
「臨床心理学概論（’20）」を履修しておくことが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　子どもを取り巻く現状と心理臨床

子どもを取り巻く状況は、虐待や貧困、いじめや不登校、災害によるトラウマなどさまざまな問題が山積し厳しいものとなっている。そのような社会に生きる子どもを対象とした心理臨床の領域を紹介するとともに、子どもの援助者として大切な視点や姿勢について考える。

【キーワード】
不登校、いじめ、生物−心理−社会モデル、心理臨床の視点

執筆担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
放送担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

第2回　乳幼児期・児童期の心の発達

乳幼児期から児童期の子どもを対象とした臨床実践においては、心の発達についての理解が必要不可欠である。ここでは心理臨床を実践する上で理解しておくべき、心の発達の諸理論を概説する。

【キーワード】
アタッチメント（愛着）理論、分離−個体化理論、自己感の発達、心理・社会的発達、発達課題

執筆担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
放送担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

第3回　子どもの心理療法１
遊戯療法

遊戯療法の意義と目的、および、遊戯療法の中で行われるアセスメント、遊戯療法の重要な構成要素である、場所、時間的枠組み、心理的枠組み、用いられる遊具、セラピストの対応について解説する。

【キーワード】
遊戯療法の意義と目的、アセスメント、遊戯療法の構成要素、セラピストの対応

執筆担当講師名：吉田　弘道（専修大学名誉教授）
放送担当講師名：吉田　弘道（専修大学名誉教授）

第4回　子どもの心理療法２
親面接

親面接の目的、親面接の進行過程、子どものアセスメントを行うための情報の収集項目および話の聴き方、親面接を行う場合のセラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイントについて解説する。

【キーワード】
親面接の目的、情報の収集、セラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイント

執筆担当講師名：吉田　弘道（専修大学名誉教授）
放送担当講師名：吉田　弘道（専修大学名誉教授）

第5回　子どもの心理療法３
認知行動療法

子どものための認知行動療法について、その理論と実践における工夫、ケースフォーミュレーションについて学ぶ。また、子どもの認知行動療法の実際として、不安と怒りへの個別のアプローチとグループプログラムを紹介する。

【キーワード】
認知行動療法、思考（認知）・感情・行動、ケースフォーミュレーション、心理教育、予防プログラム

執筆担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
放送担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
ゲスト：松丸　未来（東京認知行動療法センター）

第6回　子どもの心理療法４
グループアプローチ

グループアプローチは、個人への支援とともに重要な臨床実践である。しかし、グループならではの心性が生じることがあり、グループダイナミクスを意識したかかわりが求められる。さまざまなグループアプローチがあることを知り、システム的見地など、グループ理解を深める。

【キーワード】
グループの治療的要因、グループの発達、グループダイナミクス、グループとしての家族と家族療法

執筆担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）
放送担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）
ゲスト：塩谷　隼平（東洋学園大学教授）

第7回　トピックス１
児童虐待

児童虐待への対応では、子どものトラウマと心身の発達を見据えた支援が必要になる。子どもとの関係づくりを行いながら、同時に長期的に子どもをサポートする視点を身に付けたい。虐待を受けた子どもの心理的サポートとともに、彼らが自己を成長させうる環境要因について解説する。

【キーワード】
児童虐待の予防、アタッチメント、ソーシャルサポート、トラウマ、教育支援と特別支援級

執筆担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）
放送担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）
ゲスト：井上　真（横浜いずみ学園園長）

第8回　トピックス２
発達障害

発達障害という概念はこれまで変遷を重ねてきているが、ここでは、2013年に改訂されたDSM−5における新たな診断基準に基づき、発達障害の基本的障害を概観する。また、発達障害を抱える子どもの生きにくさや困難、二次的に生じる問題を理解し支援する重要性を学び、支援の現場におけるアプローチを紹介する。

【キーワード】
発達障害、DSM−5、自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠如／多動性障害(AD／HD)、限局性学習障害(SLD)

執筆担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
放送担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

第9回　トピックス３
ひとり親・再婚家庭の子ども

近年離婚数の増加に伴い、ひとり親家庭や再婚家庭も増加している。そうした家庭で育つ子どもの抱える心理社会的問題についての検討は十分になされているとはいいがたい。ここでは、離婚とその後の家族形態への変化が子どもの発達に与える影響を理解するとともに、その支援についていくつかの実践活動を紹介し、今後求められる支援を考えていく。

【キーワード】
ひとり親家庭、再婚家庭、面会交流、離婚・再婚の子どもへの影響

執筆担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
放送担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
ゲスト：福丸　由佳（白梅学園大学教授）

第10回　トピックス４
災害後の子どもの心理支援

災害で大切な人やもの（住み慣れた環境、安全感）を失った子どもへの支援について考える。特に東日本大震災後に行われてきた様々な心理的支援について、実際に関わってこられた支援者の方々からの活動報告も含めて紹介する。

【キーワード】
サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）、こころのサポート授業、集団遊戯療法、グリーフサポート

執筆担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
放送担当講師名：小林　真理子(聖心女子大学教授)
ゲスト：冨永　良喜（兵庫県立大学大学院教授）

第11回　臨床現場から1
子育て支援・保育カウンセリング

子どもの心理的問題は、乳幼児期からの微細な問題の蓄積によって生じるものも多い。そうした問題を予防することも、心理臨床の役割の一つになってきている。そのためには、早期にその兆候を発見し対応することが必要である。ここでは、早期発見のために重要な役割を果たしている、乳幼児健診や地域の子育て支援・保育カウンセリングについて概観し、それぞれの現場の臨床心理士の役割について学ぶ。

【キーワード】
乳幼児健診、子育て支援、保育カウンセリング、早期発見、予防的介入

執筆担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
放送担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

第12回　臨床現場から2
教育センター・教育相談室

不登校やいじめへの対応、発達障害の可能性のある子どもへの特別支援など、教育センターや教育相談室など教育領域における心理臨床について学ぶ。臨床現場の紹介を通して、乳幼児期・児童期における子どもと保護者への支援、多職種との協働、他部署機関との連携について考える。

【キーワード】
不登校、いじめ、教育相談、就学相談、特別支援教育、ネットワーク支援

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
ゲスト：波田野　茂幸（放送大学准教授）

第13回　臨床現場から3
児童福祉施設・児童相談所

施設における心理職は新たに加わった専門職であり、児童福祉臨床において社会的養護の仕組みを知ることは必須事項である。施設における心理職の働き方については、現在いくつかの立場がある。実際にどういった立ち位置を取るかは、施設の状況もあり簡単ではないが、「共同養育」の視点をもとに、他職種（多職種）協働における専門職としての心理職の貢献について理解を深める。

【キーワード】
社会的養護、児童養護施設、施設における心理支援、連携・協働

執筆担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）
放送担当講師名：村松　健司（東京都立大学教授）

第14回　臨床現場から4
小児科・児童精神科

身体の病気や発達上の問題、心身症、精神疾患など、小児科や児童精神科における子どもと家族への心理臨床の実際について学ぶ。臨床現場として、大学附属の子ども医療センターを紹介しながら、多職種によるチーム医療の中での心理士の姿勢や果たす役割について理解を深める。

【キーワード】
小児科、児童精神科（心の診療科）、チーム医療

執筆担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）

第15回　子どもの心理臨床のこれから

今日の日本社会は、所得格差や家族の価値観の多様化など、早いテンポで激しい変化が起きている。そうした変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしているのかを考え、それに伴い多様化する子どもの心理臨床の新たな役割と方向性を探っていく。

【キーワード】
心理臨床の社会的役割、予防的介入、チーム支援、他職種との連携と協同、コミュニティ支援

執筆担当講師名：塩﨑　尚美（日本女子大学教授）
放送担当講師名：小林　真理子（聖心女子大学教授）
塩﨑　尚美（日本女子大学教授）

戻る

博物館情報・メディア論（’１８）

Museum Information and Media ('18)

主任講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）、近藤　智嗣（放送大学副学長）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（水曜） 00:45～01:30
単位認定試験日／時限	2023/07/19　6時限 （15:35～16:25）
学部・院	教養学部
科目区分	（’１6カリ） コース科目　専門科目　人間と文化
科目コード	1555014
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（87.8点） 2021年度2学期（90.7点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
博物館は、展示による情報の発信のために、さまざまなメディアを利用する。一方で、博物館自体が、展示を通じて、さらには博物館全体として、社会に情報を発信するメディアそのものだとも言える。そうした「メディアとしての博物館（展示）」の観点から、この講義では、多様な博物館の具体的な事例を通して、博物館の展示とは何か、情報とメディアとは何かを考えると共に、展示に関わる情報とメディアの手法、技術、理論、利点、課題などを包括的に学ぶ。第一義的には学芸員資格のための科目であるが、情報やコミュニケーションや文化に関心のある学生、一般の受講者にとっても、幅広い教養を楽しく学べる内容である。

【授業の目標】
第一義的には、博物館学芸員資格を取得することを目標とする。博物館の展示に関わる情報とメディアとは何かをしっかりと踏まえたうえで、情報とメディアの基礎と応用に関する、具体的、また理論的な知見を習得する。また、それを通して、情報、メディア、文化等に関する広く深い考え方と教養を身につける。

【履修上の留意点】
※この科目は、人間と文化コース開設科目ですが、心理と教育コース・情報コースで共用科目となっています。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第１回　メディアとしての博物館

博物館は、情報の発信のために、さまざまなメディアを利用する。博物館はまた、展示を通じて、さらには博物館全体として、情報を発信するメディアでもある。そうした「メディアとしての博物館（展示）」という考え方は重要である。その考え方をより深く理解するため、コミュニケーションの記号論を学び、博物館展示における情報の伝達、さらに、「感動」の伝達について考える。

【キーワード】
博物館における情報、メディアとしての博物館、コミュニケーション、記号論

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第２回　博物館における情報とメディアの基礎

博物館には、さまざまな種類・規模の映像展示があるが、まず、博物館の展示における情報から考える。そこから、映像や ICT技術による展示解説の役割等について考え、その事例を紹介する。また、博物館におけるICTやメディアの利用の重要性が拡大しているが、ここでは、その発展についても概観する。

【キーワード】
映像展示、ICT、デジタルミュージアム、情報KIOSK端末、大型映像装置、ミクストリアリティ

執筆担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）
放送担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）

第３回　博物館におけるメディア・リテラシー

学芸員が知っておくべきメディア・リテラシーとして、写真とビデオのマニュアル撮影を取りあげる。マニュアル撮影することで、博物館における撮影の質を向上させることができるが、特に初心者にはわかりにくいと思われる事項を取りあげることにする。

【キーワード】
絞り、シャッタースピード、被写界深度

執筆担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）
放送担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）

第４回　資料のドキュメンテーションとデジタル・アーカイブズ

博物館は資料を収集し、長期にわたり保存し後世に伝えるだけでなく、集めた資料を調べ、情報を取り出した成果を社会に還元しなくてはならない。社会の情報化、ネットワーク化が進み、博物館も情報をデジタル化し活用する機会が増えている。ここでは、博物館情報のデジタル化と情報発信について概観する。

【キーワード】

メタデータ、ドキュメンテーション、情報通信技術、デジタル・アーカイブ

執筆担当講師名：有田　寛之（国立科学博物館科学系博物館イノベーションセンター長 ）
放送担当講師名：有田　寛之（国立科学博物館科学系博物館イノベーションセンター長 ）

第5回　博物館と知的財産

博物館にとって、知的財産権や肖像権等の保護と活用のバランスを図ることは、重要な課題となっている。情報通信技術の発展により、情報の伝搬スピードと範囲は劇的に拡大している。その結果、博物館の情報収集・発信手段は多様化し、博物館で取り扱う法的対応も複雑化している。ここでは、博物館の業務と著作権を中心に、その問題を考える。

【キーワード】
著作権、肖像権、権利処理

執筆担当講師名：児玉　晴男（放送大学特任教授）
放送担当講師名：児玉　晴男（放送大学特任教授）

第6回　ユニバーサル・ミュージアムと情報・メディア

ユニバーサルデザインとは、できるだけ多くの人が利用可能なデザインのことである。博物館においても、ハンズオン展示や解説機器など、さまざまなユニバーサルデザインがある。ここでは、特にメディアや情報技術による博物館のユニバーサルデザインを取りあげる。

【キーワード】
ユニバーサルミュージアム、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、ハンズオン展示

執筆担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）
放送担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）

第7回　博物館教育の多様な機会と情報・メディア

博物館の多様な利用者は、博物館の内外でさまざまな学際的な学習・研究活動を展開している。これらの機会を想定し、貢献するため、博物館が提供する情報と各種メディア及びその活用の具体例を参照しながら、博物館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】
博物館教育、e-ラーニング、メディアとしての博物館、参加型調査、VR、学際的学習・研究、検索、専用ポータルサイト、情報に関わる格差、情報リテラシー

執筆担当講師名：大髙　幸（放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師）
放送担当講師名：大髙　幸（放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師）

第8回　博物館の情報・メディア拡充へのさまざまな連携

博物館は、研究促進、展示やプログラム、情報公開サービスを含む教育機会提供の拡充、これらの実現を可能とする運営体制向上のために、市民グループや専門家、他機関等と情報を共有し、多様な連携を図っている。その具体例を参照しながら、博物館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】
研究に関する連携、教育機会提供に関する連携、情報共有化に関する連携

執筆担当講師名：大髙　幸（放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師）
放送担当講師名：大髙　幸（放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師）

第9回　科学系博物館における情報・メディア

科学系博物館の展示にはさまざまな年代の、多様な利用目的を持った来館者が訪れる。同じ展示資料を見ても、そこから受ける印象や得る情報は来館者ごとに異なる。ここでは、国立科学博物館の事例をもとに、展示における多様な利用者に向けた情報発信について紹介する。

【キーワード】
博物館体験、博物館疲労、情報発信、展示解説の階層化

執筆担当講師名：有田　寛之（国立科学博物館科学系博物館イノベーションセンター長 ）
放送担当講師名：有田　寛之（国立科学博物館科学系博物館イノベーションセンター長 ）

第10回　生き物（水族）の博物館における情報・メディア

「水族」を中心とする生き物の博物館として、海遊館とニフレルを取りあげる。前者は「生態展示」を特徴とする臨海の大型屋内水族館で、後者は「感性にふれる」をテーマとした全く新しいタイプの都市型の複合的ミュージアムである。コンセプトが異なるこの2館を比較し、「コミュニケーションの記号論」の観点から、生き物の博物館における情報とメディアについて考える。

【キーワード】
生態展示、コンセプト、リング・オブ・ライフ（環太平洋生命帯）、感性にふれる、記号としての魚（生き物）

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第11回　生き物（サル）の博物館における情報・メディア

生き物の博物館のもう一つの例として取りあげる日本モンキーセンターは、1957年に「博物館登録された動物園」として発足し、60年近くを経て公益財団法人となった。現在、京都大学の現役の教員が運営し、博物館はいかにあるべきか、研究成果・情報をどのように展示し発信するかなどについて、さまざまな検討や実

践が行なわれている。そこで、同センターの展示やスタッフの活動を紹介し、生き物の博物館の有り方について考える。

【キーワード】
霊長類学、京都大学、ビジターセンター、生態展示、キュレータートーク

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第12回　民族と歴史の博物館における情報・メディア

国立民族学博物館（民博）は、研究に基づく情報の発信を重視して設立された博物館として重要である。その創設当初の構想と30年後に策定された新基本構想を比較し、それがどのように展示に反映されてきたか検討する。国立歴史民俗博物館（歴博）では、重要な文化財の保存と展示のバランスに苦心し、当初からレプリカが利用されたが、ITの進歩によって、デジタル技術等の活用が重視されてきた。この重要な2館を比較しながら、博物館の情報とメディアの有り方とその変化について考える。

【キーワード】
梅棹忠夫、構造展示、ビデオテーク、フォーラムとしての博物館、双方向性、文化財、保存と展示、レプリカ、デジタル画像

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第13回　美術館における情報・メディア

美術館における情報には、美術館自体、資料である美術作品や、教育機会、利用者とのコミュニケーション等に関わるものがあり、これらの情報を利用者が館内・館外で活用する場合によりさまざまなメディアがある。これらの具体例を参照しながら美術館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】
鑑賞、触覚、複製、VR、シリーズ化、アウトリーチ、パブリシティ、広告、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディア

執筆担当講師名：大髙　幸(放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師)
放送担当講師名：大髙　幸(放送大学客員准教授、慶応義塾大学大学院非常勤講師)

第14回　考古の博物館における情報・メディア

縄文文化の三内丸山遺跡・まるやまミュージアム・青森県立郷土館と、古墳文化の西都原古墳群・宮崎県立西都原考古博物館を取りあげ、サイト・ミュージアムでもある考古学の博物館で、研究成果・情報がどのように展示され発信されているのか、その背景にあるコンセプトがどのようなものであるかを比較し、考える。また、新しい情報・メディア技術がどのように活用されているのかをみていく。

【キーワード】
三内丸山、縄文文化、西都原古墳群、古墳文化、フィールド・ミュージアム（野外博物館）、サイト・ミュージアム（遺跡博物館）

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第15回　地域の総合博物館における情報・メディア

滋賀県立琵琶湖博物館は、琵琶湖をかかえる滋賀県の特性を生かした、地域に密着した博物館である。湖と人との関わりの総体の歴史から、近代文明の有り方をもとらえなおし、自然とのつきあい方を探るための博物館を目指している。同博物館はまた、「フィールドへの誘い」、「交流の場」をコンセプトとして掲げ、実践してきた。これらのコンセプトと実践を検討し、「メディアとしての博物館」の観点から、社会に開かれた博物館の有り方を考える。

【キーワード】
琵琶湖、研究と地域、湖と人間、フィールドへの誘い、交流の場、個人的文脈

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

戻る

博物館展示論（’16）

Museum and Exhibition Studies (’16)

主任講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（火曜） 00:45～01:30
単位認定試験日／時限	2023/07/23　3時限 （11:35～12:25）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　人間と文化
科目コード	1554875
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（84.6点） 2021年度2学期（91.9点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
この講義では、人類の遺産、歴史、文化、自然や科学が、いかにして博物館の展示として表現されるのかを、事例を通じて理解するとともに、展示のもつメッセージ性について学ぶ。まず、博物館の種類、展示の種類、展示の構造などの概要を学んだあと、日本と世界の博物館の事例を通して、まず博物館展示の多様な特徴を理解する。さらに、博物館の設立や特別展、リニューアルなどの過程やその背景を知り、多様な展示を比較しながら、展示のコンセプトやメッセージがどのように表現されるのかを理解する。また、博物館展示と社会との相互作用や、展示にこめられたメッセージ性や政治性について考える。

【授業の目標】
まず、博物館の展示とは何かを理解し、多様な博物館の展示の手法、工夫、技術等について、事例を通して学ぶ。また、博物館の展示のコンセプトやメッセージが実際にどのようにして具現化されるのかを、博物館の設立、特別展示、リニューアルなどを通じて学ぶ。さらに、展示制作者（発信者）が、研究をどのように展示に活かすのか、観覧者（受信者）や社会とどのように向き合うのか、それをコンセプトにどのように組み込み、展示に反映させるのか、などの動的な営みについても学ぶ。最後に、国家や社会の体制、大きな歴史的な脈絡のなかで、博物館展示がどのようなメッセージ性や政治性をもつのかについて考える。

【履修上の留意点】
単位認定試験には、映像教材からも比較的多く出題する。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　展示論とは・展示の構想と具現化 ーリトルワールド本館展示

第1章では、まず、博物館展示とは何か、また、展示の多様な手法や特徴を整理して理解する。事例では、担当講師がその開設に携わった野外民族博物館リトルワールドの基本構想、本館展示のコンセプトの検討、その具現化までの過程を通じ、具体的な展示制作の流れについて学ぶ。

【キーワード】
展示の理論と実践、博物館の分類、展示の分類、コンセプト、メッセージ、展示の政治性、テーマ、展示の階層構造

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第2回　現地調査と展示の具現化 ーリトルワールド野外展示

本章では、リトルワールド野外展示場の3つの展示、アイヌ・コタン、ネパールの仏教寺院、ペルーのアシエンダ（大農園）領主邸宅の事例を通じて、展示のコンセプト、調査や収集の実際、さまざまな人との協力、状況に応じた判断と工夫など、博物館の展示活動全般に通じる事柄について学び、考察する。

【キーワード】
アイヌ・コタン、シェルパ、仏教寺院、チベット仏教、アシエンダ、インディオ（先住民）、日本人移民

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第3回　国立博物館の展示 ー東京国立博物館と九州国立博物館

展示は、博物館活動のなかでも中心的位置を占める重要なテーマである。本章では、独立行政法人国立文化財機構が設置する「国立博物館」の中でも、最古の東京国立博物館と最新の九州国立博物館の平常展示を取り上げ、それぞれの展示の概要や展示室の構造を理解したうえで、両者を比較し、展示の意味を考察する。

【キーワード】
平常展、総合文化展、テーマ展、文化交流展、コンセプト優先型、モノに語らせる、モノで語る

執筆担当講師名：井上　洋一（東京国立博物館副館長）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
井上　洋一（東京国立博物館副館長）

第4回　博物館のリニューアル
ー国立科学博物館と静岡科学館

博物館の展示は、規模の差はあるにしても、何らかの形でリニューアルされていくのが一般的である。本章では、国立科学博物館と静岡科学館を取りあげ、博物館のリニューアルの実際について学び、リニューアルは何故必要なのか、リニューアルする際に考えなければいけなことは何か、などについて考える。

【キーワード】
自然科学系博物館、博物館のリニューアル、展示のリニューアル、展示の再利用、メインテナンス

執筆担当講師名：近藤　智嗣（放送大学副学長）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
近藤　智嗣（放送大学副学長）

第5回　特別展の構想と具現化
ー科博のグレートジャーニー展

本章では、国立科学博物館における特別展「グレートジャーニー」を取り上げ、この展覧会の作成過程を見ていきながら、コンセプトに沿った展示物の選定、展示方法のポイント、効果的な展示方法がどのように組み立てられていくかを具体的に学ぶ。更に展示の評価をどのように行うかについても理解する。

【キーワード】
人類の移動拡散、空間構成の工夫、イラスト・絵の活用、展示品選定の方法、グラフィックの工夫、ミニチュアやレプリカの活用、ケースの工夫、照明の工夫

執筆担当講師名：関野　吉晴（武蔵野美術大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
関野　吉晴（武蔵野美術大学名誉教授）

第6回　民族文化の展示
ー国立民族学博物館の舞台裏

近年、世界の民族学博物館では、展示のコンセプトや構成などが多様になっている。本章では、日本の国立民族学博物館で行われてきたいくつかの展示実践の事例を通じて、それらがどのような内容のもので、どのような研究をベースとし、どのような経緯で生まれたものであるのかなど、展示の背景について考える。

【キーワード】
民族学（文化人類学）、モノの収集、常設展示、企画展示、アフリカ展示、日本展示、アマゾン、イメージの世界

執筆担当講師名：池谷　和信（国立民族学博物館教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
池谷　和信（国立民族学博物館教授）

第7回　大学博物館の展示とその役割
ー国立大学と私立大学

近年、大学博物館の重要性が大きくなっているが、大学博物館が学内及び社会に対して果たしている役割や意義は何だろう。大学博物館の展示のコンセプトや特徴は、大学によってどのように異なるだろう。本章では、国立4大学、私立2大学の事例を取り上げ、それらについて比較し、考える。

【キーワード】
学術標本、大学総合博物館化、研究・教育、知の蓄積と継承、フィールド・サイエンス

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第8回　歴史系博物館の展示
ー国立歴史民俗博物館と地方の博物館

本章では、まず国立歴史民俗博物館と東北歴史博物館の展示を比較検討し、歴史系博物館の展示のコンセプトとそのメッセージ性や政治性について考える。また、吹田市立博物館と知多市歴史博物館を取り上げ、地域密着型の歴史系博物館の特徴やその役割、また市民との共同などについて学ぶ。

【キーワード】
歴史系博物館、博物館の政治性、展示の政治性、地域の歴史、エミシ、地域密着、市民参画、ボランティア

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第9回　沖縄の博物館
ー固有の歴史と戦争体験をめぐる博物館展示

本章では、沖縄県立博物館・美術館と県平和祈念館を中心に、沖縄の歴史、文化、現状、戦争体験などが、展示にどのように表現されるのかを紹介し、博物館展示の意義と内容について考える。また、沖縄本島や離島（石垣島）の他の博物館も取り上げ、それらの博物館の展示が相互に補い合っていることについても学ぶ。

【キーワード】
琉球王国、沖縄戦、琉球政府、戦争体験、住民証言、いのちのことば、平和の礎、総合展示、部門展示

執筆担当講師名：園原　謙（沖縄県立博物館・美術館副参事兼博物館班長）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
園原　謙（沖縄県立博物館・美術館副参事兼博物館班長）

第10回　アイヌ民族と北海道の博物館
―展示をめぐる立場と視点

博物館はアイヌ民族の歴史や文化をどのように展示してきたのだろうか。そこには博物館が乗り越えなければならないどのような課題があるのだろうか。本章では、主に北海道博物館のリニューアルを通じて、考える。また、北海道の他の博物館のアイヌ文化展示も取りあげ、博物館展示の相互補完的な関係についても学ぶ。

【キーワード】
アイヌ文化、時代性、通史展示、アイヌ民族の歴史、アイヌ民族の現在、無形文化の展示、テーマ別展示

執筆担当講師名：出利葉　浩司(元北海道博物館学芸員)
放送担当講師名：稲村　哲也(放送大学名誉教授)
出利葉　浩司(元北海道博物館学芸員)

第11回　北米の博物館
ーカナダ、アルバータ州の博物館を中心に

博物館の展示は学芸員だけによって作られるのではない。館外の人びとと共同で作りあげることがある。作る人が異なれば、価値観も異なり、「展示物」や、それをもとに「いいたいこと」も異なる。本章では、主にカナダのアルバータ州の2つの博物館の事例を通じて、こうした問題にどのように対応すべきかを考える。

【キーワード】
先住民、神話、ティピ、円形の広場、伝承活動、儀式、語り、博物館資料

執筆担当講師名：出利葉　浩司(元北海道博物館学芸員)
放送担当講師名：稲村　哲也(放送大学名誉教授)
出利葉　浩司(元北海道博物館学芸員)

第12回　南米の博物館
ーペルーにおける考古学と博物館

本章では、古代アンデス文明の膨大な文化遺産を抱える、ペルー共和国を対象として、国家、個人、研究者などさまざまな主体による博物館の設立、運営、展示活動とその背景について知る。考古資料の性質、研究の進展・動向、社会状況などが博物館のあり方に大きく影響することについても学ぶ。

【キーワード】
アンデス文明、考古資料、ナショナル・アイデンティティ、天野コレクション、遺跡博物館、クントゥル・ワシ遺跡、東京大学古代アンデス調査団

執筆担当講師名：鶴見　英成(放送大学准教授)
放送担当講師名：稲村　哲也(放送大学名誉教授)
鶴見　英成(放送大学准教授)

第13回　ヨーロッパの博物館
ーミュージアム展示の新たな方向性

ミュージアムはヨーロッパで始まり、日本には、明治政府による国造りの一環として取り入れられた。現代のヨーロッパでは、民族、移民、差別、個人など身近なテーマを取り上げ、市民参加や情報公開も積極的に行われている。本章では、ドイツ、イギリス、ベルギーにおけるミュージアムの展示から何が見えるか検証する。

【キーワード】
負の遺産、ナチス、日常性、個人、移民、偏見、ヨーロッパ民俗学、市民参加、情報公開

執筆担当講師名：高橋　貴(愛知大学名誉教授)
放送担当講師名：稲村　哲也(放送大学名誉教授)
高橋　貴(愛知大学名誉教授)

第14回　アフリカの博物館
ー南アフリカの野外博物館を中心に

ともすれば展示される側として見られがちなアフリカで、どのような展示が主体的に展開されているのだろうか。本章では、主に南アフリカのンデベレ民族のカルチュラル・ビレッジを取り上げ、ナショナル・アイデンティティ、観光など、展示における今日的な問題について考察する。

【キーワード】
植民地、独立、ナショナル・アイデンティティ、国立博物館、ンデベレ民族、カルチュラル・ヴィレッジ、観光、アフリカ美術、作者名

執筆担当講師名：亀井　哲也(中京大学教授)
放送担当講師名：稲村　哲也(放送大学名誉教授)
亀井　哲也(中京大学教授)

第15回　アジアの博物館
ーインドネシアとモンゴルの博物館を中心に

本章では、まずインドネシア国立博物館を取り上げ、植民地からの独立と博物館展示の関係について学ぶ。ついで、モンゴルの国立博物館と極西部のカザフ民族居住地区のバヤンウルギー博物館を取りあげ、社会主義下のマイノリティと博物館展示、民主化・市場経済化による博物館展示の大きな変化などについて考える。

【キーワード】
植民地、国民統合、社会主義、革命のイデオロギー、民主化と博物館、チンギス・ハーン、マイノリティ、チベ

ット仏教、イスラーム

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

戻る

博物館資料保存論（’19）

Preservation of Museum Collections (’19)

主任講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）、本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

メディア	テレビ
放送時間	2023年度［第1学期］（金曜） 00:45～01:30
単位認定試験日／時限	2023/07/19　1時限 （09:15～10:05）
学部・院	教養学部
科目区分	（’16カリ） コース科目　専門科目　人間と文化
科目コード	1555065
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2022年度1学期（90.1点） 2021年度2学期（96.3点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

【講義概要】
博物館資料である「もの」の保存について、その考え方を理解し、知識を学び、技術に触れる。そして、「もの」の保存は、材質や製作技法など資料の特徴を捉え、伝えてきた人や時代の判断を知り、「もの」に適した環境を整え、必要に応じて繕うことにより成り立つことを理解する。また、多様な博物館の多様な資料保存に関する具体的事例を参照し、その意義や方法について包括的に学ぶ。さらに、防災、危機管理、被災後の対応、伝統の保全、環境の保全などのような、地域との連携による資料保存についても、事例を通して理解し、これからの資料保存のあり方について考える。

【授業の目標】
博物館学芸員にとって重要な、資料保存に関する基本的な考え方や基礎的な知識を修学するとともに、専門家との連携、学芸業務以外の多様な部門との連携について学ぶ。また、事例を通じて、多様な博物館資料とその保存の特徴について広く知り、とりわけ、地域との関わりにおける資料保存の意義や方法について理解する。

【履修上の留意点】
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回　博物館資料保存論の導入

博物館の活動の根幹をなす資料保存の意義と基本的な考え方について理解し、文化財保護の法的基盤の変遷と、多様な文化財と博物館資料について踏まえたうえで、資料に影響を与える因子を整理し、それぞれの管理の方法や専門家との連携について学ぶ。また、資料の利用とのバランス、地域と連携した資料保存のあり方、資料保存修復過程の公開などについても理解する。

【キーワード】
博物館資料、文化財、保存、修復、環境、点検、調査、研究、公開、危機、管理項目、影響因子、IPM（総合的有害生物管理）

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第2回　博物館資料の保存環境

博物館資料の保存環境について、その管理方法を学ぶ。収蔵庫や展示室あるいは輸送中等において、温湿度、光、空気質、生物等が資料にどのような影響を与えるかを理解し、その把握と対応を考える。九州国立博物館、国立民族学博物館、宮崎県総合博物館の諸活動を通して保存環境の把握方法等を確認する。

【キーワード】
保存環境、環境管理、温湿度、光、空気質、生物

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第3回　自然史系博物館の資料保存

国立科学博物館など自然史系博物館において、動物標本、植物標本などの収蔵・展示資料を保存するために把握・考慮すべき諸条件について、具体的な実践事例を通して理解する。

【キーワード】
自然史系博物館、動物標本、植物標本、化石標本、データベース、保存科学

執筆担当講師名：真鍋　真（国立科学博物館標本資料センター長）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
真鍋　真（国立科学博物館標本資料センター長）

第4回　人文系博物館の資料保存

人文系博物館の資料保存について、資料の取り扱い、収納・収蔵、調査・研究、展示・公開、移動・梱包・輸送、修理・修復等の諸活動の留意点を学ぶ。九州国立博物館、東京国立博物館、熊本市現代美術館、田川市石炭・歴史博物館の取組みを通して理解する。

【キーワード】
人文系資料、収納・収蔵、調査・研究、展示・公開、移動・梱包・輸送、修理・修復

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第5回　野外博物館と建築物資料の復元・修復・保存

極めて複合的である建築物資料を中心に、多様な野外博物館の事例をとりあげ、その復元、修復、保存の意義や特徴について考える。「現地保存型野外博物館」として、アイヌ民族が集住する北海道の平取町二風谷地域、及び江戸時代の本丸御殿を再現した佐賀城本丸歴史館をとりあげ、「収集展示型野外博物館」として博物館明治村をとりあげる。

【キーワード】
野外博物館、建築物資料、現地保存型、収集展示型、平取町二風谷、エコミュージアム

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第6回　考古遺跡・史跡と博物館における資料保存

大分県の川辺・高森古墳群に「風土記の丘」事業によって整備された「宇佐風土記の丘」と大分県立歴史博物館、また、開発に伴う事前調査の結果を踏まえて保存、復原、展示された、佐賀県の吉野ヶ里歴史公園をとりあげ、考古遺跡・史跡等の保存や活用の実際を理解し、また、それがどのような歴史的経緯と文化政策によって展開してきたかを学ぶ。

【キーワード】
遺跡、史跡、風土記の丘、古墳、弥生、吉野ヶ里、覆屋

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第7回　伝統的保存法

博物館資料の多くを占める日本の美術工芸品は、この国の風土で育まれた伝統的保存法のサイクル「扱い・収納・曝涼・修理」により奈良時代から現代まで続いていることを、曝涼・曝書の歴史を通して学び、伝世の手法についても考える。宮内庁書陵部図書寮文庫の機械空調に頼らず自然換気で管理する取り組みを紹介する。

【キーワード】
取り扱い、風土、曝涼・曝書、収納、修理、伝統的保存法

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
ゲスト：青木　豊（國學院大學教授）

第8回　正倉院宝物の保存

「もの」の保存の原点である正倉院宝物の保存のあり方について、1200年以上にわたる正倉院の宝庫や宝物の修理や曝涼の記録からわかる危機管理の歴史を通して説明する。また明治期から本格的に行われてきた定期的な曝涼・点検と修理・模造製作及び現在の基本的な考え方と取り組みについて紹介する。

【キーワード】
正倉院、宝物、曝涼、点検、修理、模造

執筆担当講師名：西川　明彦（宮内庁正倉院事務所長）
放送担当講師名：西川　明彦（宮内庁正倉院事務所長）

第9回　文化財の保存修理と博物館

文化財（美術工芸品）の保存修理は、近世まで民間で培われた伝統技術を基に近代的な理念で発展してきたが、近代日本の博物館の成立や機能と密接な関わりを持つ。こうした歴史を踏まえ、九州国立博物館文化財保存修復施設の取り組み及び宮内庁三の丸尚蔵館の修理事業の成果を通して文化財保存修理の意義を考える。

【キーワード】
文化財、美術工芸品、保存修理

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第10回　博物館のIPM

博物館等の燻蒸に使われていた臭化メチルが2004年末に全廃されたことを受け博物館の虫菌害対策として導入された「総合的有害生物管理（IPM）」の考え方を理解し、その進め方を考える。九州国立博物館、国立民族学博物館、宮崎県総合博物館、熊本市現代美術館の取り組みを紹介する。

【キーワード】
虫菌害対策、燻蒸、IPM、臭化メチル全廃、保存環境

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
ゲスト：三浦　定俊（文化財虫菌害研究所理事長）

第11回　博物館の防災・減災

地震災害は、日頃の備えが被害の軽減に反映されるので、その対策を学ぶ。来館者とスタッフの人的減災と博物館資料の減災のために日頃から実践的に備える愛知県美術館の避難訓練の事例を紹介し、日常の危機管理の大切さを伝える。

【キーワード】
地震対策、防災・減災、避難訓練、危機管理

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第12回　大規模自然災害と博物館

大規模自然災害が発生した時、博物館は何ができるか。熊本地震では、発災後、自館の被災対応、他の被災館への支援に加えて、地域の被災文化財救出等に地域の博物館が取り組んだ。また早期の再開館により心の避難所となった熊本市現代美術館の事例を通して博物館の役割を考える。

【キーワード】
大規模自然災害、地震、被災文化財レスキュー、心の避難所

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）

第13回　地域産業の保全と新たな価値の創造

資料保存の観点からも、博物館の地域との交流・連携・展開は重要である。地域の「伝統」の一部としての地場産業の保全から新たな「文化資源」が生成したユニークな事例として群馬県藤岡市の瓦産業と博物館をとりあげ、地域博物館の意義とあり方について考える。

【キーワード】
第三世代の博物館、古墳群、埴輪、瓦、達磨窯、鬼瓦、瓦・造形会、地場産業の継承、新たな芸術文化

執筆担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）

第14回　環境保全と博物館の社会的役割

琵琶湖博物館の開館前から開館直後の方針やねらいを事例としてとりあげ、環境保全の拠点の一つとしての博物館の建設・運営と社会的役割について紹介し、その意義や今後の課題を検討する。また、環境保全を考える施設建設と運営について論じ、地域に根差した第3世代の博物館の方向についての問題提起を行う。

【キーワード】
琵琶湖、湖と人間、フィールドへの誘い、参加型博物館、自分化、交流と対話の場

執筆担当講師名：嘉田　由紀子（前滋賀県知事、元環境社会学会会長）
放送担当講師名：稲村　哲也（放送大学名誉教授）
嘉田　由紀子（前滋賀県知事、元環境社会学会会長）

第15回　文化財保護と博物館資料保存の役割

国の文化財保護の拠点である従来型の博物館である九州国立博物館における市民参加型の資料保存活動と、地域の文化遺産を地域住民自らが資料保存するエコミュージアムとしての「太宰府市民遺産」活動、この二つが同じ地域内で取り組まれている事例を通して、文化財保護と博物館資料保存の役割を考える。

【キーワード】
市民参加型の資料保存、太宰府市民遺産、エコミュージアム

執筆担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
放送担当講師名：本田　光子（放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員）
ゲスト：森　弘子（太宰府市景観・市民遺産会議議長）

戻る